同じアクセサリを装着することによる同調の消失

○笠置遊¹・有賀敦紀¹・小野史典²

(¹立正大学心理学部・²山口大学教育学部)

キーワード：同調, 集団凝集性, 外見的類似性

Wearing Same Accessories Dramatically Eliminates Conformity

Yu KASAGI¹, Atsunori ARIGA¹, and Fuminori ONO²

(¹ Faculty of Psychology, Rissho University, ² Faculty of Education, Yamaguchi University)

Key Words: Conformity, Group Cohesiveness, Similarity

目 的

街中での消費行動, 会議における意見表明など, 私たちは日常生活のさまざまな場面で他者, あるいは集団に対して同調する。このような同調現象について, 社会心理学の分野では古くから研究が行われてきた。

例えば Asch (1951) は, 個人の態度が集団に対して同調するのかを調べた。実験参加者の課題は, 標準刺激として呈示された線分と同じ長さの線分を, 互いに長さの異なる 3 つの線分の中から選ぶことであった。実験の結果, 最初に回答した複数のサクラが間違えた線分を選ぶと, 実験参加者もサクラと同じ間違えた線分を選んだ。この結果は, 集団に受容されたいという動機付け (規範的影響) に基づいて, 個人の態度は大きく変容することを表している。

このような規範的影響に基づく同調は, 集団凝集性が高いほど生じやすいと考えられる。集団凝集性とは, 成員をその集団に魅きつけ, その中に引きとめておこうとする力の総体として定義される (Festinger, 1950)。一般に, 人種, 職業, 年齢や性格など, 個人に持続的に備った属性の類似性が, 集団凝集性を高めると考えられている (Lott & Lott, 1965)。

本研究では, 一時的かつ強制的に与えられた外見的類似性も集団凝集性を高め, 同調を促進するのかを調べた。

方 法

実験参加者 30 人 (男性 15 人, 女性 15 人) の学生が実験に参加した。

刺激 さまざまなカテゴリ (顔や風景など) の画像ペアを 80 個 (計 160 画像) 作成した。その後, 予備実験 ($N = 45$) によって 2 つの画像の間で好みがないペアを 8 ペア選出し, 実験の刺激とした。

手続き 4 人を 1 つのグループとして実験を実施した。ただし, そのうち 3 人はサクラ (全員女性) であり, 残りの 1 人が本当の実験参加者であった。4 人は横一列に並ばされ, 画面に呈示される画像ペアのどちらが好きかを順番に回答するよう指示された。このとき, 実験参加者は必ず最後に回答するよう誘導された。呈示された画像ペアは参加者ごとにランダムな順序であった (計 8 試行)。

外見的類似性を一時的かつ強制的に操作するために, 半分の試行 (第 1-4 試行, あるいは第 5-8 試行) で 4 人全員に同じアクセサリ (レイ, 図 1) を装着させた。レイを装着するタイミングは参加者間でカウンターバランスをとった。

さらにサクラは, あらかじめ決められた回答パターンを試行ごとに行った。この回答パターンによって多数派の人数が操作された。二人一致条件では, 3 人のサクラのうち 2 人が同じ回答を行い, 三人一致条件では, 3 人のサクラが全員同じ回答を行った。

デザイン 2 要因 2 (レイの有無: あり vs. なし) $\times$ 2 (多数派の人数: 二人 vs. 三人) の参加者内要因であった。

図 1 レイ

図 2 実験の結果

結 果

実験参加者の回答が多数派の回答と一致した試行の割合を同調率として算出し, 条件ごとに図 2 に表した。分散分析の結果, レイの有無および多数派の人数の主効果は有意でなかった ($F(1,29) < 1.00, ns$)。しかし, 要因間の交互作用は有意であった ($F(1,29) = 5.97, p < .05$)。レイあり条件で多数派の人数の単純主効果が有意であった ($p < .05$)。また, 二人一致条件でレイの有無の単純主効果が有意であった ($p < .05$)。

考 察

本研究では, 一時的かつ強制的に与えられた外見的類似性は, 同調を促進するのかを調べた。実験の結果, 以下の 3 点が明らかにされた。

- (1) レイなし条件では, 二人一致条件よりも三人一致条件の同調率が高かった (さらに, いずれも 50% 以上)。したがって, 本研究において多数派への同調が生じた。
- (2) 二人一致条件に注目すると, レイあり条件ではレイなし条件よりも同調率が高かった。したがって, 一時的かつ強制的に与えられた外見的類似性は, 同調を促進することがわかった。
- (3) 興味深いことに, 三人一致条件において, レイあり条件ではレイなし条件よりも同調率が低かった。つまり, 同じアクセサリを成員全員が強制的に装着させられることで, 同調は消失した。

本研究における同調の消失は, 一時的かつ強制的に与えられた外見的類似性によって特別に生み出された現象かもしれない。成員全員が同じアクセサリを装着することで, 集団凝集性が過剰に高まり, その結果として成員に凝集性を低下させるような動機付けが働いた可能性がある。実験参加者は, 集団凝集性を適度な状態に戻すために, 態度を変容させた (すなわち, 多数派に対して同調しなかった) と推測できる。